

春木浦と岸和田浦における漁業権

大塚 祥子

現在、岸和田市域の漁港では蛸・イワシ・しらす・ネズミゴチ（ガッチョ）等多くの海産物が水揚げされ、本市の魅力の一つとなっていますが、江戸時代には蛸・鰯・鰯鯉（かたくちいわしの別称）などが泉州地域を代表する海産物として漁獲され、漁業や運輸業に従事する人々によって海岸部が賑わっていました。

江戸時代における漁業権の取り決めや漁獲方法等については、さまざまな古文書や絵図が残されています。今回は、漁業権の訴訟（＝出入）に関する資料を取り上げたいと思います。

まず、江戸時代の漁場の一般的な取り決めとしては、陸地に近い海岸部は地元村の漁場とされ、沖合は複数の村が共同利用する「入会漁場」という形がとられていました。岸和田藩の海岸部は、岸和田・春木・津田・脇浜・靄原・佐野・嘉祥寺・岡田・樽井の 9 浦に分かれており、基本的に上に述べた方法で漁場が利用されていたものと思われるのですが、当時の漁場利用の様子が分かる一例として右の〔史料〕をみていきます。

これは寛永 19（1642）

一 ③沖園二而、浮物ハ勿論、しつミ魚ニ而も、何様ニも御遣可被成候、但しこぎ網こぎ申時ハこぎ網之前、御あらけ可被成候也、右うき物しつみ物ニよらず三ヶ一浦着春木浦より取ニ御出し可成候、若岸和田衆着不出候ハ、網御遣セ被成間敷候、為後日証拠如件 寛永十九年 午九月八日 津田市左衛門 脇濱久左衛門 〔他十三名（五浦）省略〕		一 ①岸和田浦之まかせ網、春木浦領内へ網遣ニ参り被申候ハ、うき物ハ魚見付次第第二網遣可被申候、但地ちかき園網代二而、うき物ニ而なく候ハ、春木浦へ理り被申相談可被仕事也、又②浮物ニ而も地網以路を見付、或ハあておきに而も網置懸申内ハ、御遣被成間敷也 （沈み）	
同 岸和田 惣左衛門殿 同 春木 両庄屋殿 同 浦 又兵衛殿 同 彦兵衛殿 同 清兵衛殿		史料 このたびはる きうら きしわ だらでいり ござそうろう つき うらべ としより あつかいもうしそうろうこと 「今度春木浦・岸和田浦出入御座 候 二付、浦辺へ年寄とも 嘸 申 候 事」 （岸和田市教育委員会所蔵）	

年に作成された「今度春木浦・岸和田浦出入御座候ニ付、浦辺へ年寄とも嘸申候事」という古文書で、春木浦と岸和田浦の間で漁業権に関する何らかの相論が起こり、他の7浦の仲介により下記の内容で解決が図られたことがわかります。

本文を要約すると、①海岸部については、「岸和田浦」の漁師が「春木浦領内」の海岸近くで漁をする場合には、「うき物」（海面を泳いでいる魚）を見つけ次第、漁をしてもよいが、「しつミ魚」（沈み魚＝海底にいる魚）を獲る場合には、春木浦に断りを入れること、②「うき物」がいても春木浦が地引網漁を行っている場合は、岸和田浦の漁師は操業しないこと、③沖合については、「うき物」・「しつミ魚」ともに獲ってもよいが、春木浦が漁を始める際には、漁場を使つてはいけなことが記されています。

この〔史料〕により、春木浦では海岸部において岸和田浦の操業が認められていたことや、沖合では春木浦が優先的に漁業をすることができる権利を有していたことがわかります。また、7浦が仲介していることから、岸和田藩領内の漁場の秩序は9浦の合議で守られていたことがみてとれます。

以上、春木浦と岸和田浦との漁業権の取り決めについて述べてきましたが、今回紹介した〔史料〕は、現在、岸和田城企画展「訴訟・歎願に残る村の記憶展」にて10月11日まで公開していますので、ぜひ岸和田城にお越しください。また、他にも訴訟や嘆願にまつわる資料を展示しておりますので、そこから、江戸時代に生きた人々が、自身の権利や村の平穏等々を守ることに尽力している姿を感じていただければと思います。

（おおつかしょうこ：岸和田市郷土文化課）

岸和田市周辺の化石

谷本 正浩

化石は、いろいろな時代の地層から見つかりますが、時代別に見ると、古い順から古生代、中生代、新生代に分けることができます。古生代は三葉虫などが栄えた時代、中生代は恐竜などの爬虫類が栄えた時代、新生代は哺乳類が栄えた時代と言えます。

それでは岸和田市やその周辺では、どの時代の化石が見つっているのでしょうか？大阪府全体に視点を広げれば、古生代の化石も見つかるのですが、岸和田市周辺では古生代の化石は発見されていません。中生代の化石については岸和田市では発見されていませんが、貝塚市などの泉南地方では和泉層群と呼ばれる白亜紀の地層から、アンモナイトなどの海の生物の化石が見つかりますし、モササウルス類という海の大型爬虫類化石も見つかっています。きしわだ自然資料館には、上記の地域などで発見されたモササウルス類の実際の化石が展示されていますし、泉南地域の海の貝化石なども多数展示されています。アメリカ産のモササウルス類の復元全身骨格も展示されているので、ぜひご覧ください（図1）。



図1. きしわだ自然資料館のモササウルス類化石の展示風景. アメリカ産モササウルス類のクリダステス復元骨格の後ろに見えるガラスケースには、和泉層群産のモササウルス類化石が展示されている。（渡辺克典氏撮影）

なお中生代の化石の代表とも言える恐竜化石自体は見つかっていませんが、同じ和泉層群の地層が広がる淡路島などでは、恐竜の化石が見つかったので、これから泉南地方で恐竜が見つかる可能性もあります。きしわだ自然友の会では、年に一度和泉層群の化石を採集する行事もあります。そこで大阪府初の恐竜化石が見つかるかもしれません。

岸和田市は新生代の大阪層群の地層が発達しており、化石産地にも恵まれた地域です。キシワダワニという愛称で呼ばれる約 60 万年前の大型のワニ化石も見つかっています(図 2)。2018 年に国際誌で発表された研究論文は、世界中の研究者から注目されました。

岸和田市の阿間河滝町^{あまがたき}は植物化石がたくさん見つかります。現地では、きしわだ自然友の会の行事が何度も開催されました。「はっぱ化石グループ」という名前の化石研究会が、きしわだ自然友の会の中で結成されて、興味ある人たちが一緒になって調べたりしたこともあります。ここで見つかった約 270 万年前(推定)の植物化石は、2004 年にきしわだ自然資料館で出版された「郷土の化石大探検!」という学習マンガの中でも紹介されています。同じ町内の別の場所では植物化石だけでなく、オサムシの仲間の昆虫化石も見つかっていて、「きしわだ自然資料館研究報告」第 2 号(2007)で論文が出されています。

岸和田市稲葉町の化石産地は、工事現場で見つかりました(図 3)。きしわだ自然資料館や大阪市立自然史博物館の研究者によって調査がされており、約 100 万年前の貝化石などが見つかっています。2020 年の 4 月に地層の観察と化石採集の行事が、きしわだ自然友の会によって企画されましたが、コロナウイルス感染症対策のために中止・延期になりました。

岸和田市周辺の化石の詳細については、きしわだ自然資料館が出版した「きしわだ地学シリーズ」の「和泉の山の化石たち」「モササウルスとそのなかまたち」「キシワダワニとそのなかまたち」で紹介されています。ぜひお読みください。



図 2. きしわだ自然資料館のキシワダワニ化石展示の様子。キシワダワニの復元画の下ガラスケースには、キシワダワニの標本などが並べられている。(渡辺克典氏撮影)



図 3. 岸和田市稲葉町の化石産地の露頭と、そこで見つかった淡水生の二枚貝オトコタテボシガイの化石。(露頭写真：渡辺克典氏撮影 標本写真：上地健琉氏撮影)

Information

●自然資料館の展示

「第24回ネイチャーフォト写真展」

写真サークル「クローズアップ岸和田」の会員による、身近な動植物の写真展です。ふだんは気がつかないような自然の姿を発見できるかもしれません。

会 期：2020年9月13日(日)～10月3日(土)

時 間：午前10時～午後5時

(入場は午後4時まで)

休館日：9月21日を除く毎週月曜日、9月19日、20日、23日、9月30日

場 所：きしわだ自然資料館1階ホール(堺町)

入場料：無料(常設展は高校生以上200円)

●岸和田城の展示

企画展「訴訟・歎願に残る村の記憶展」

岸和田市が所蔵する歴史資料のうち、訴訟書や嘆願書に焦点をあて、江戸時代ごろの岸和田の様相や暮らしぶりを紹介します。

会 期：2020年5月23日(土)～10月11日(日)

時 間：午前10時～午後5時

(入場は午後4時まで)

休場日：8月10日、9月21日を除く毎週月曜日

場 所：岸和田城天守閣2階展示室(岸城町)

入場料：高校生以上300円・中学生以下無料

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL: <http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
(googleなどの検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。